

Quarterly

HeadLine

「混乱の平成」 経済小説をドラマ化
「ハゲタカ」原作者・真山仁氏インタビュー

Vol. **20**

2018 夏

100年企業

分断社会と企業

疲労計測

林業と漁業を結ぶ

オルゴール

社会人ラグビー

危機管理

コンパクトシティ（広島県尾道市）



■ 深 層 (第9回)

21世紀の100年企業

リコー経済社会研究所 所長
 (株)リコー 執行役員 神津 多可思

3

■ 特 集

「混乱の平成」経済小説をドラマ化
 =「ハゲタカ」原作者・真山仁氏インタビュー=

産業・社会研究室 客員主任研究員 田中 博

4

■ 冬夏青々 (第9回)

分断する社会、重み増す企業の役割

リコー経済社会研究所 常任参与
 (株)リコー 取締役会議長 稲葉 延雄

10

■ ヘッドライン

ストレスの見える化で健康に

=画像技術で疲労大国に挑む=

産業・社会研究室 研究員 伊勢 剛

11

山・里・海が繋がった南三陸町

=国際認証が結ぶ林業と漁業=

環境・資源・エネルギー研究室 研究員 間藤 直哉

14

世界に一つだけのオルゴール作りに挑戦

=長野・下諏訪で歴史を学び、音色を体感=

RICOH Quarterly HeadLine 編集部 竹内 典子

16

銀行員から転身した異色のラガーマン

=リコーブラックラムズの守護神・中澤健宏=

RICOH Quarterly HeadLine 編集部 西脇 祐介

18

日中平和友好条約締結40周年を巡って

=日本危機管理学会が第27回年次大会=

企画室 研究員 小野 愛

20

■ コンパクトシティが地方を救う (第15回)

瀬戸内海が育んだ「箱庭」的都市／尾道市 (広島県)

リコー経済社会研究所 副所長・主席研究員

RICOH Quarterly HeadLine 編集長 中野 哲也

21



第9回 21世紀の100年企業

リコー経済社会研究所 所長

(株)リコー 執行役員 神津 多可思

世界的にみて、日本には長寿の企業が多い。寺社の建築を専門とする金剛組の歴史は1400年以上前の聖徳太子の時代にさかのぼることができ、世界で最も古い企業といわれている。そこまでいかなくとも、創業100年を超える企業は日本に3万社以上あるらしい。

明治維新から150年、第2次世界大戦終結から70余年であることを考えると、その間の著しい経済環境の変化の中で企業経営を存続させてきたというのは本当にすごいことだ。

今年、大学を出て就職をした20歳代前半の人が定年を迎えるのは40年以上先のことだろう。そのころまで、現在ある企業のどれほどが経営を続けていけるか。昨今の加速するマーケットの変化に鑑みると、想像することも難しい。

現存する長寿企業に共通する特徴の一つは、当たり前だが、提供する製品やサービスに対する需要がなくならなかったということだ。全く同じ製品、サービスという意味ではない。衣食住をはじめ、人間が生きていくうえの本源的な求めに応じるためのマーケットというのは、形、姿を変えてずっとあったし、それはこれらもそうだろう。変化にしなやかに対応し、お客様の求めに応じ続けることができたのが長寿企業なのだろう。

企業が変わろうとすると、縮小していくマーケットに見切りをつけて、新しい分野へシフトしていくパターンをまず思いつく。これは一番分かりやすいが、経営としては一番難しい。それまでの主力の製品、サービスを代替するものが、そう簡単に見つかるはずはないからだ。本当に鋭い目利きが必要になるが、それをもってしても結果的に成功するかどうかは大きな賭になる。

一方、日本の企業の場合、得意な分野でさらなる工夫を重ねるという戦略を採ることが多い印象もある。その場合でも、ニーズの変化の本質を見極め、それにジャスト・フィットする製品、サービスへと変えていかななくてはいけないので、大変なことに変わりはない。経営環境の変化が速いときはなおさらだ。その際、これまでの製品の作り方、サービスの提供の仕方が、新しい時代のニーズのどこにうまくフィットするかという創造的な発想も重要になるだろう。

長寿企業に共通するもう一つの特徴は、お客様や地元、社員などの今でいうステーク・ホルダーに愛されてきたということのようだ。その愛の中での真摯な挑戦こそが100年企業を育てていく。それは21世紀においても変わらないだろう。

「混乱の平成」経済小説をドラマ化 ＝「ハゲタカ」原作者・真山仁氏インタビュー＝

産業・社会研究室 客員主任研究員 田中 博

2018年7月の木曜午後9時からテレビ朝日系列で綾野剛さん主演のドラマ「ハゲタカ」が始まる。原作は2004年に刊行された小説家・真山仁氏の同名の小説とその後のシリーズ作品。経済小説としては異例の累計230万部の売り上げを誇る。

バブル崩壊後の日本に、外資ファンド代表として現れた鷺津政彦が、世間の激しいバッシングをものともせず大銀行と対峙（たいじ）、名門企業などに次々と買収劇を仕掛け、緻密な戦略と情報を駆使した末に勝利していく様を描いた。既成の秩序に挑む主人公の鷺津は冷徹なアンチヒーローであり、テーマも企業の合併・買収（M&A）という専門分野にも関わらず、多くの読者を魅了し、今また映像化されようとするのはなぜか。

ドラマ化に当たって真山氏にインタビューし、「ハゲタカ」に込めた思いや現在の著作活動などについて話を伺った（取材は2018年5月15日）。



真山 仁氏（まやま・じん）

1962年大阪府生まれ。1987年同志社大学法学部政治学科卒業。同年中部読売新聞社（現・読売新聞社中部支社）入社、1989年同社退社。フリーライターを経て、2004年「ハゲタカ」でデビュー。その後「ハゲタカⅡ」「レッドゾーン」「グリード」とシリーズ化、8月に第5弾となる「シンドローム」を講談社から刊行予定。その他の著書に、日本の食と農業に焦点を当てた「黙示」、3・11後の政治を描いた「コラブティオ」、国家財政危機を題材にした「オペレーションZ」などがある。テレビの報道番組にもたびたび出演し、経済だけでなく、政治や社会問題など幅広いテーマに斬り込む論客でもある。



（提供）テレビ朝日

一平成は日本経済にとって失われた30年とも言われます。「ハゲタカ」は2007年にもNHKでドラマ化されていますが、今回平成の世が終わるタイミングで再びドラマ化される意義や意味をどのように感じていますか。

年号のネーミングとは真逆の、暗黒と混乱の平成が始まったのは1989年ですが、われわれがバブルの崩壊を実感したのは1995年ぐらいでしょうか。奇しくも、ハゲタカの物語と時代が並列で動いているのです。実はテレビ朝日からは「平成を締めくくるにふさわしい象徴的な作品として考えています」と言われました。視聴者の方が、大河小説みたいにハゲタカを通して改めて平成を振り返っていただければいいと思います。

今となっては、社会人でも30代はバブルの時代を知らないし、分別がつく年齢ということを考えると、どうかしたら40代半ばぐらいまで当時のことをよく分かっていないわけです。ただ、バブルにはディスコで派手に踊るようなイメージがあって良かったと言われるけど、現実には恩恵を受けたのはごく限られた人だけ。多くの日本人にとって浮かれていたという印象はないし、少なくとも私にはない。

だからバブル崩壊以降の不幸な世代と言われている人たちにも、通して平成の30年間を振り返ることによって、イメージと現実との間にズレがあることを感じてもらうという点でも意味があるのではないのでしょうか。

—平成は経済大国・日本が下降線をたどる時代。日本経済の姿が象徴的に描かれています。

恐らくこの30年ほど世界を見回しても、歴史を経済の視点で見たことはなかったと思います。20世紀初めの大恐慌が起きた時代でも、その一方でファシズムが席卷したり、大正デモクラシーが湧き起こったりと、主役は政治だった。ところが平成になって政治が経済に振り回されるようになったんじゃないですか。その間に起こったバブル崩壊やリーマン・ショックもそう。経済をコントロールすべき政治が、逆に経済を解き放とうと規制を外してきたことで、歯止めが利かなくなった。

もともと私は経済が得意なわけではない。本来は社会や政治から日本の仕組みを見たいと思っていたのが、お金なしでは語れなくなってきた。経済の力が世界、地球を回しているという実感は、明らかにこの30年の間に強くなったと思いますね。

—その中で作品としてなぜファンドを取り上げ、M&Aを描いたのですか。

経済には人の欲望が露骨に出るから面白い。政治や社会など全てのジャンルの中で最も感情を排しているように見えるのですが、実は経済ほど感情的なものはないと思っています。それは人間の欲望と密接に関わるからです。

名経営者といわれる人が晩節を汚すケースで多いのは名誉欲だったり、後継者への対抗意識や嫉妬にとらわれたりすることで、身を引くタイミングを誤ってしまうのです。感情を数字というコーティングで見せないようにしているだけで、一枚くればドロドロの世界が渦巻いている。

ファンドや外資系金融機関が登場するM&Aの世界も、一見すると感情とは無縁のようですが、実際は生々しくてずる賢い欲望のゲームが繰り広げられています。例えば、買収される企業の経営者がどれだけ愛社精神を訴えて抵抗したとしても、いきなりゴールデン・パラシュート（高額の退職金）を示されたら、買収者に対して「私は何をしたらいいでしょうか」と豹変する。

昔シェイクスピアが人間の業を描いたときは、プライドや血族などもっと生臭い人間の話が中心にありましたが、今や人は地位やお金で簡単に転んでしまう。だから買収劇を通して、現代の人間の業を描きたかったのです。

—主人公の鷲津は、そうした世の中を冷徹に読み切っているわけですね。

鷲津はアンチヒーローであって決して正義の味方ではありません。基本は「悪対悪」の戦いなのです。そんな鷲津みたいな人物が支持される世相というのも、今の時代を象徴していると思います。

高度成長期は頑張れば報われる社会であり、少なくとも右肩上がりの時代には、平等ではなくても大きくなったパイをみんなで分け合うことで豊かさを実感することができたのです。それがだんだん停滞期になって退廃的になり、今までの方程式が全然通用しなくなった。

いい大学を出て一流企業に入って幸せになるはずが、歳を取るといきなり「出て行ってくれ」と言われる。あるいは勉強ができたのに、勉強できない人のほうが幸せになっている。

お芝居の中で見る不条理ではない、現実的な不条理がたくさん出てきたときに、「自分が報われないのは自分が悪いんじゃない。社会にひずみがあり、そのひずみをうまくつかむ人が成功するのであって、自分たちは真面目だからそれが分からない」と考えるのでしょうか。

アンチヒーローと言われる人たちは、悪いことは承知の上だし、それを他人にも隠そうとしない。誰もが自分はそうはなれないと思っているところに、もっと悪い奴が現れたときに戦って勝てたら胸がすくんですよ。

純白な正義の味方もいなくなったけど、真っ黒な悪者もいない。善人面している人からお金を取るような義賊が今の時代感覚に合って、受け入れられているのかなと思っています。



(提供) テレビ朝日



(提供) テレビ朝日

鷲津を描く際に気を付けているのは、カッコいいことも言うし、武士道精神にのっとったサムライ魂の男であるかのようにカムフラージュしていますけど、必ずどこかでスカしたい男だということです。本当はいい奴かもしれないけど、お金は欲しいからというスタンスは変えていません。

一小説では鷲津のライバルとして元銀行員でターンアラウンド・マネジャー（再生請負人）に転じる芝野健夫という人物も出てきます。鷲津が「悪」、芝野は「善」という位置付けですか。

芝野が本当に善かというところ、時々ひきょうなこともするし、要領もいいし、機を見て敏なところもある。絶対大損する人ではないのですよ。でもあれこそかつての日本の「できる人」なんです。生臭い正論を吐いて、われに義ありと言っているけど運命共同体で沈む船には乗っていない。バランス感覚なり適合力という言葉が、日本のビジネスマンの最大の美徳と言われるじゃないですか。

「ハゲタカ」を発表してそれなりに多くの人に読んでいただけたようになったときに一番驚いたのは、7対3の3ぐらいで芝野のファンがいることでした。昔の旧態依然としたエリートがきれいごとを言っているのに対して、みんなが駆逐されればいいのにと思っているのかなというところ、そうではない。特に中間管理職以上の人が芝野に感情移入して泣いているそうです。

小説の手法では、ヒーロー一人を見せるだけでは絶対的な存在になってしまうので、対立するカウンターパートを立てたりする。鷲津をより際立たせるために芝野というキャラクターを使ったのです。それが想像以上に多くの読者に共感していただいた。これが日本人の好きな姿なのだなと実感しました。外国の小説しか読んでこなかった私には分からない感覚でした。

ただ、若い人には鷲津のようになってほしいと思います。サイン会を開くと「鷲津に憧れて今、投資銀行で働いています」という若い人が必ずやって来ます。実際の外資系はもっとウェットで上司に気に入られなければならないし、ある意味、日本の会社以上です。そういう意味では鷲津みたいな一匹オオカミになるのは難しいけれど、やっぱり若い人が鷲津に憧れてくれるのはうれしいし、書いて良かったなと思っています。



(提供) テレビ朝日

一ハゲタカシリーズに限らずエネルギーや農業、国家財政など経済のさまざまなテーマをとり上げてきました。最近では「週刊文春」でノンフィクション連載「ロッキード」を始めるなど領域を政治の分野にも広げていますね。

これまで描いてきたのは、お金のうねりこそがいろいろなものを飲み込んでいた時代でした。しかし、2011年に東日本大震災が起ってから、経済の仕組みレベルでは多分この国は変わらないなと思い始めました。根本的な社会のシステム全体を変えるためには市場の力や企業の力では無理で、政治の力が必要だろうなと考え始めたのです。

例えば働き方を根本的に変えたり、成長できないことを前提に社会の仕組みを考えたり、少子高齢化問題を考えたりするときに、われわれとしてはどういうカードを切らなきゃいけないとか考えるのは政治です。世界を見渡しても、ある意味常識を完全に逸脱したことを国の為政者たちがやり始めている。これを止めるためにはもっと多くの人が政治を理解しないとイケないと思います。

私は「3・11」以前と以後というのは戦前と戦後ぐらい大きな変化があったような気がするんです。「災前」「災後」とでも呼んだらいいのでしょうか。その意味で2018年というのは、私にとってもものすごく重要な二つのことが始まったエポックな年なのです。

一つは、ハゲタカシリーズ第5弾となる「シンドローム」の単行本化です。8月に刊行する予定で、東日本大震災後の原発問題をテーマにしたものであり、日本の根幹に関わる題材を扱っています。

ずっと経済を軸足に書いてきたのですが、集大成と言ってもいいでしょう。エネルギー問題があり、M&A、国の財政問題、さらに被災地とどう向き合うのかといったテーマも含まれています。現代の経済歴史小説として歩んできたハゲタカシリーズでは第4弾の「グリード」で、リーマン・ショック後のアメリカ企業に対する買収劇を描きましたが、必然的にその後は3・11に飛ぶしかなかったのです。

もう一つは、「ロッキード」。今の政治を見ても、日米関係を見ても、なあなあで流れていっている感じが否めません。これはどこから始まったんだろうかと考えたときに、多分ロッキード事件なんだろうなと思ったのです。

「週刊文春」とのやり取りで最初は「小説でやりますか」と聞かれました。でも、この話を小説でやるのは逃げでしょう。正直、架空の名前ならばいくらでも面白くできますよ。でも、ひきょうだと思ったんです。これは向き合うべきだと。



—それで今回初めてノンフィクションを手がけることになったのですね。

これまでフィクションを書き続けてきた理由は、ノンフィクションをやっても調べたことの価値が必ずしも表現できないんじゃないか。結局、何が言いたいかわからなくて終わるんじゃないかと思っていたのです。フィクションであれば本質を見せることができるという確信は持っているのです。

しかし、これだけロッキード事件に関する新たな情報が毎年延々と出てきているのなら、1枚1枚めくっていけば自分なりの本質が出せるのではないかと思い直しました。

取材を始めてみて思ったのは、あまりにも最初から田中角栄＝ワルありきで進んでいたのではないかということです。角栄は金にまみれている政治家の代表であり、アメリカを怒らせたからこうなったのだという構図が見えすぎているのです。

文春からは「真山さんは日米関係について独特の視点を持っている。どちらかというとな国の関係をこれでいいのかと思っている。検察庁は小説でやっているし、政治の仕組みやお金の流れも全部小説で培ってきたではないか。だから角栄をやるのに、ロッキード事件を描く素材をあなたが一番勉強してきたはずだ」と言われました。

こうして追い詰められて、ノンフィクションでやるのは必然だろうなと腹をくくったわけです。

—ロッキード事件を書いていく上で念頭に置いていることは何ですか。

政治のプロフェッショナルでない私が、彼らの言う“当たり前”を純粋になぜかと問うていければ、一方的なものの見方だけではないものが浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。

実はこれを書くのは通説との戦いだと思っていたのです。簡単にこの壁は破れないかもしれないと思いましたが、いろいろな人にお会いしたり、当時の資料や文書に目を通したりすると、このもろさは何だろうなと感じ始めました。

実際、すごく危ないバランスの上に乗っかっているんです。世論とかムードとか、事の順番もそうですよね。

例えば角栄が日本改造論を出すタイミングが違っていたらあはならなかったらと思うますし、事件当時の総理大臣が三木武夫でなければどうだったのかなど、たくさんの「イフ」があるわけです。フィクションだと恥ずかしくて書かないような、あり得ないことやミスも現実にはたくさん重なっています。

ただ、当時の政治家たちを見ていると、少なくとも独立した国家として踏ん張らなければいけないという気概があったような気がします。背中に負っているものがあつた。ところが今は、経済がどンドンダメになっていったように、政治の劣化も著しいのではないのでしょうか。

メディアも同様に最近公開されたハリウッド映画「ペンタゴン・ペーパーズ」だって今の人から見たらSFの世界ですよ。ちょうどロッキード事件のころの実話ですが、国防総省の極秘文書を開示していこうと新聞社が戦っていたわけです。

日本でも今重要な問題が山積しているのに、アイドルの不祥事なんかのニュースがずっと大きくとり上げられたりする。私なんかどちらかと言うと批判的な小説を書いているし、何でこんなつらい時代にハッピーエンドにならない厳しいものばかり書くのかと言われますけど、つらいからこそ書くべきだと思います。

現実起きているつらいことに目をそむけてホームドラマやお笑いでごまかされていると、現実逃避するようになる。極論すれば戦争になっても誰も止められない。そういう人に限って後から、「だまされた」と言うんですよ。でもそうではなく、見て見ぬふりをしてきただけなのです。そうさせないためにも警鐘を鳴らすことによって、興味を持ってもらわなければいけない。

一テレビ番組でコメンテーターなどとして活動の幅を広げているのもその一環ですか。

報道番組にしか出ないように努力をしていますが、打ち合わせをすると何となく私が呼ばれた理由が分かります。でも話の流れの中で期待された通りに落ちないかもしれないし、他の人がイエスと言う話をそうじゃないと言えるスタンスも守りたいと考えて話をしています。だからこそ呼ばれる頻度が増えてきたのかなと思っています。

ただ、批判的な発言をするときに大事なのは、野党的にあれも反対これも反対、あれもダメこれもダメとするのではなくて、ほかの選択肢もあるし、論じないこと自体がリスクなんですよということ。それを分かってもらうように努めています。

一個人的なことをお聞きますが、なぜ小説家を志したのですか。

小説家になろうと思ったのは15歳のときです。小学生のころからみんなが見ないものばかり見ていて、学級会で1対45で始まった話し合いを、最後には過半数の意見を翻らせて逆転するのが趣味だったような困った子だったんです。

でも反対のための反対ではなくて、そんなにすんなり決めていいのと思うから少数意見を主張していたのであって、もちろん全てが逆転できるわけではなく、原案通りのこともあったけど、こんな意見もあったよねと認識していくことが大事だと思っていました。

サッカーをやっているときでも、皆がボールに集まるほうには行かず、ここに出てくるんだろかなと思う誰もいないところで待っていればボールが出てくる。別に心眼があるわけもなく、一步引いてみれば当たり前前で広いところにボールは出てくるわけです。

そういう視点を持っていることは、もしかしたら歌がうまいとか足が速いとかというのと一緒かもしれない。大なり小なりみんな自分は何で生まれたんだと考える時期があるじゃないですか。自分の中に強い特質や才能を見つけられれば一生の仕事にしたいと思うのですが、私の場合はどうもほかの人と違うことが見えて、思い込みかもしれないけど何となく役に立っている。じゃあそれをどのように活かせばよいだろうかと考えたのです。

政治家や弁護士などいろいろ考えました。でも一人の影響力が限界があるよなと思ったときに浮かんだのが小説家でした。自分自身も本から大きな影響を受けてきましたが、なるほどたった一人の人間が書いたものが、こんな多くの人にメッセージを届けていることが分かりました。挑戦するには高い山のほうがいいのでやってみようかなと思って15歳から懸賞小説に応募し始めました。



もちろん高校生でそんな簡単にデビューなんかできないわけで、どうやったら憧れているイギリスの作家たちのようにになれるのかなと思って調べたら、彼らの多くが記者上がりだったんですよ。

フレデリック・フォーサイスやブライアン・フリーマンの小説を読むと、人間ってこんなひどい裏切りをするんだとかいうところが非常に面白いし、社会や政治についても考えさせられる。取材力や分かりやすい文章、人脈が大事だろうと見据え、自分もまずは記者になろうと、「赤本」で新聞社にたくさん入っている大学を探したわけです。

—そこから始めたんですね。

そしていくつか受けた中で同志社大学に入り、就職でも最後の最後で中部読売新聞社の記者になったわけです。最初に警察担当として配属されましたが、面白くて天職だと思いました。当時は警察嫌いな記者が多い中、大事にもされました。ただ、これ以上いると会社にとっていい記者になるだろうけど、小説家になりたいという気持ちが薄れていくのだろうなと思い、一度地べたに降りたほうがいいなと2年半で辞めたのです。

基礎は新聞記者時代に培いましたけど、人に何かを伝えるという点では、その後のライター時代の経験が生きています。主にエンターテインメントの広告記事しか書いていないのですが、売れ行きが悪いコンサートや公演、舞台などを、いかにうそをつかないで書くかということで腕を磨きました。

結果的にその広告記事でチケットがよく売れたので、途中からは私に頼んで売れないなら仕方ないという雰囲気になっていきました。実際に自分で舞台を見て絶望的になったり、興味が湧かなくても、どう書けば興味を持ってもらえるのだろうと必死に考えました。

今考えたらその人の立場になって何かを見るという視点は、さまざまな登場人物を描く上で役に立っています。だから、嫌な仕事はない。どこにでも入れるんですよ、気持ちが。

—今、たくさん仕事を抱えているとお聞きしています。どうやって管理しているのですか。

連載は4本抱えていて、400字詰め原稿用紙で月に320枚、本だったら2カ月で一冊出せる分量です。そこで仕事ごとに音楽を変えて頭を切り替えます。

一般の人にお勧めなのは歌詞が分からないもの。歌ってしまって気が散ることもあるからです。自分の場合は、映画のサウンドトラックがいいですね。連載が始まるまでよく映画館に行ったり、DVDを見て合う曲を探したりしています。これはライター時代から続けている方法で、音は全てを遮断してくれますし、仕事に完全に没頭するとその音も聞こえなくなります。そして潜在意識の中にあるものを引き出してくれるのです。

あと、特定の場所でしか仕事ができないというのは止めたほうがいい。音楽一つで没頭できるので、新幹線の移動中でもすぐ仕事場になります。

行き詰まったときは散歩をしています。歩くとふくらはぎと心臓に刺激を与えられるのでだんだん脳の血の巡りが良くなってきます。最初は逆に関係ないことも頭に浮かぶのですが、歩いて少し疲れてくると濾（こ）されていく。

最近では歳を取ったせいか無理をしなくなりました。体力が落ちて睡眠時間をきっちり取らないと頭が動かない。昔は一つ仕事をやったら、「はい次」という感じだったのですが、今はひと区切り着いたら、自分へのご褒美で1時間だけ映画を見るというようなことをやっています。

若いころと比べると、ものすごく密度の高い時間の使い方をしていきますね。人間の能力には限界があるので、何を優先すべきか考えて、やれる範囲の中で限られた時間の中で集中してやれるようになりました。今はやりの働き方改革を自分で実践しているようなものですね。



(提供) 真山事務所

(写真) 提供以外は西脇祐介
PENTAX K-50

第9回 分断する社会、重み増す企業の役割

リコー経済社会研究所 常任参与
（株）リコー 取締役会議長 稲葉 延雄

世界中で社会の分断が生じている。経済の繁栄から取り残された人々を中心に、保護主義や移民排斥などの政治的要求の動きが強まっており、これが社会の一体感を切り崩している。宗教的対立も加わって、ひどく険悪化している地域もある。

米国では貧しい白人層をバックにトランプ政権が誕生し、保護主義的政策を次々に打ち出している。結果的に国を貧しくする施策であるのに、既成のリーダーたちは対抗手段を打ち出しえないでいる。英国ではいったんは脱EU（欧州連合）の機運が高まったが、国としての統一した主張がいまだに形成されてない。そのEU各国も、反EU・反難民を標榜する一部勢力が推す政党の存在感が急速に増大している。

日本社会も無縁ではない。若い人たちの間では、所得制約や育児の困難から第二子、第三子の出産をあきらめる人たちがいる。介護の面では老々介護に疲れているお年寄りも多く、介護のために離職を余儀なくされた人々がいる。いずれも、無念なことに自分の人生を自分では決められなくなった人々であって、そうでない人々との間のギャップが拡大している。日本でも目には見えないが、社会の分断は存在する。

このような社会の分断の原因として、グローバル化や技術革新の進展から、経済発展の中で一部の集団に富が集中し、多くの人々の賃金が伸び悩んでいることを挙げる論評が増えている。日本でも、低スキル労働の需給はタイトになっているが賃金は低く、高賃金の高スキル労働は労働の供給が追い付かない。というミスマッチが、そうした動きを助長している。

こうした事態の解消には、個人レベルでの技能向上の努力がまず必要である。理系の開発技術者は自らの陳腐化した知識を新しい知識に入れ替えねばならないし、文系のセールススタッフは新しいデジタル製品・サービスの商品性の研究が怠れない。企業の側でも、働き方改革や人的投資の拡充で個人レベルの努力を力強くサポートすることが必要である。そうすれば、より高いスキルを有する労働者の充実を通じて、生産性を上げ、より高い賃金で従業員に報いることができる。

社会の分断は遠い国々の現象のように思われるが、われわれ自身の問題であり、社会の中に生きる企業自身も解決の方策を見つけていくべき問題である。

ストレスの見える化で健康に ＝画像技術で疲労大国に挑む＝

産業・社会研究室 研究員 伊勢 剛

ストレスや疲労は自分でも気づきにくい。ほかの人に分かってもらうのはなおさら難しい。疲れた状態がしばらく続くと心や体の病気につながる場合が多い。こうしたストレスや疲労を測定し、見える化できる技術をリコーが開発した。

疲労の測定には汎用のカメラを使う。顔を撮影し、画像の色を解析すると、脈拍の間隔を高精度で計測できることが分かったのだ。

この色解析はリコーの主力商品である複合機(MFP)やプリンターで培った技術を活用している。きれいにカラー印刷ができていないか評価する技術を顔色の解析に応用したのだ。

脈拍間隔のゆらぎが分かると、自律神経のバランスを導き出せることはよく知られている。自律神経とは、自らの意思に関係なく体の機能を調整する神経だ。血管や内臓の動きはこの自律神経が支配している。自律神経には心身を緊張させる交感神経と、リラックスさせる副交感神経の2種類がある。この二つのバランスの乱れがストレスや疲労に大きく影響しているのだ。そのバランスの乱れから、疲労度が見える化できる。



疲労計測システムの撮影シーン
(提供) リコー研究開発本部APT研究所



疲労計測システムの画面イメージ
(提供) リコー研究開発本部APT研究所

今回、世界で初めて医学的なデータに基づいて、カメラで疲労度が分かる技術を確認した。ポイントは非接触で疲労度を測れるということだ。従来は指先でセンサーに触れたり、シート状のセンサーに座ったりして脈拍を測定していた。身体に触れなくても測れると、これまでなかった利用方法が見えてくる。

最初に想定している利用シーンはトラックなどの運送事業者による乗務前点検だ。法令では、交通事故撲滅のため乗務者のこうした点検が定められている。この点検項目の中には、酒気帯びの有無などに加えて健康状態の確認がある。

酒気帯びの有無はアルコール検知器で確認できる。しかし、睡眠不足や疲労などについては管理者が運転者の様子を目で確認しているのが現状だ。この疲労度を客観的な数値で示せば、点検の効果が高まり、作業の効率化もできる。

リコーは現在、いくつかの運送事業者と実証実験を進めている。客観的な判断がしにくい疲労度の判定は、大きなメリットがあると評価されている。カメラの前に座るだけで計測できる点も、乗務員の計測の手間が少ないため評判がいい。

しかし、開発を進めていくうえで課題も見つかった。例えば、測定に2~3分かかる点だ。乗務前点検にはたくさんの項目があり、疲労の確認にあまり時間を割くことができないのである。

この点について、システムの開発責任者、リコー研究開発本部APT研究所の船橋一樹スペシャリストは、「ノイズ信号の低減や解析アルゴリズムの改善で解決への道筋は見えてきた」と話し、測定時間短縮に向けて開発を進めているという。

この研究に欠かせないパートナーが理化学研究所だ。同研究所の「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム」では、将来にわたり健康で前向きな人生を送るうえでの「羅針盤」の提供を目指している。100を超える地方自治体や大学・研究機関、企業と連携。異分野融合による最先端の研究開発や成果の事業化、人材育成を一体的に展開している。



理化学研究所・融合連携イノベーション推進棟（神戸市）

同プログラムで融合研究推進グループ健康計測解析チーム／新規計測開発チームを率いる水野敬チームリーダーに、理化学研究所の技術の特徴や異分野融合イノベーションについて聞いた。



水野 敬氏（みずの・けい）

理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム 健康計測解析チーム／新規計測開発チーム・チームリーダー

大阪市立大学大学院医学研究科 疲労医学講座・特任准教授、大阪市立大学健康科学イノベーションセンター・センター副所長

〔経歴〕

2007年大阪市立大学大学院博士課程修了、博士（医学）。

2004年日本学術振興会・特別研究員、2009年理化学研究所分子イメージング科学研究センター・研究員、2013年理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター・基礎科学特別研究員、2016年より理化学研究所健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム・副チームリーダー、2017年より現職

水野チームリーダーインタビュー

「疲労に関する研究に長年取り組んでおられますが、理化学研究所での研究の特徴を教えてください。」

世界最先端の脳科学の研究から、世界で初めて疲労のメカニズムを解明したことが一番の特徴です。実は日本は疲労大国で、日本人のおよそ4割が慢性疲労といわれています。疲労大国であるがゆえに、疲労の研究も世界をリードしてきました。

もう一つの特徴は疲労メカニズムだけでなく、疲労を改善する解決策も研究していることです。多くの製薬会社や食品会社と連携し、効果がある薬や食品などを開発してきました。少し変わった研究では、住宅メーカーと協力し、どのような家に癒やし効果があるか、暖炉やペレットストーブの火が疲労回復に役立つか—なども調べました。

疲労を計測するシステムや疲労回復に効果がある製品を開発しても、医学的なデータで裏付けることが重要です。これには実際にヒトの状態を計測する必要があり、私たちはその役割も担っています。昨年度の健康計測臨床試験では720人が参加しました。そこで得られたデータは医学的に信頼性があると認められ、新しい製品やサービスの開発に使われています。

一異分野融合イノベーションの良い点、難しい点を教えてください。

さまざまな業種の企業と連携していると、私たちに思いもつかないようなアイデアや提案をいただくことがあります。ペレットストーブに疲労回復や癒やし効果があるという研究は私たちだけでは想像もできませんでした。

難しい点は研究機関が学術的に知りたいことと、企業が事業的に知りたいことの間ズレが生じる場合があることです。これは連携を進めているうえではある程度仕方のないことで、議論を重ねて解消していくほかないと思います。研究員の確保も課題です。共同研究の話を多くいただくのですが、予算や研究員の雇用期間の問題などがあり、対応に限界があります。

リコーとの共同開発は順調に進んでいます。この中では、私たちの研究から分かった自律神経バランスの乱れと疲労との関連性を指標として活用しています。また、優秀な研究者に担当していただいているので、データ解析などには自発的に取り組んでもらっています。結果についてのコメントや議論に多くの時間を割くことができ、とても楽しいです。

一今後の展開や夢などを聞かせてください。

現代医療では、病気の人を治療することに重点が置かれてきました。しかし、これからは病気が発症する前の段階で予防する考え方が重要になります。慢性的に疲れている「未病」の段階で手を打てば、「生き生き」とした健康な人生を送れるはずです。

リコーとの共同研究テーマも非常に興味深く、「未病」状態での健康把握に役立つと期待しています。現在は目を閉じて静かにしていないと疲労度が計測できません。しかし将来は、目を開けたり動いたりしていても計測できるようになると思います。そうすると生活の中で広く使われるに違いありません。



共同研究を進めている理化学研究所の水野氏（右）とリコーの船橋氏

インタビューを終わって

リコーの船橋氏は「動きながら計測できると、リコーの主なお客様であるオフィスなどで働く人向けのシステムに展開できる」と語る。

例えば、在宅勤務者向けのストレス・疲労計測システムへの応用が考えられる。ノートパソコンのカメラなどを使えば、簡単に疲労度が計測できる。在宅勤務では、上司が部下と顔を合わせる機会が減り、ストレスや疲労の把握が難しくなる。システムが実用化されれば、在宅勤務者と管理者の双方にメリットがあるだろう。

理研の水野氏は、超小型カメラがメガネに内蔵されると、生活している長い時間、疲労度が計測できると指摘。「どのようなデータが取れるのか医学的にもとても楽しみだ」と実現に期待する。

当面は運送事業者による利用など、ニーズが明確な利用シーンに向けて商品化を進めることが大切だ。しかし、それだけでは大きな夢を持つことができない。その技術が持つあらゆる可能性を想像しながら、パートナーやお客様と協業して研究開発を進めていくことが重要だろう。

(写真) 提供以外は筆者
RICOH IGR

山・里・海が繋がった南三陸町 ＝国際認証が結ぶ林業と漁業＝

環境・資源・エネルギー研究室 研究員 問藤 直哉

東日本大震災から丸7年が過ぎた。壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町では、バイオマス産業都市構想のもと、環境に優しく災害に強い町を目指して復興が進んでいる。



今もクレーン車やショベルカーが動き回る南三陸町。津波被害の象徴として残る旧防災対策庁舎の鉄骨は、巨大な盛土に覆い隠されようとしている。海岸沿いでは、巨大な防潮堤を建設中だ。この風景だけ見れば、生活や観光の再建は遠い先のように感じるかもしれない。



盛土と旧防災対策庁舎

だが、車で走っていると、町の中心に真新しい平屋の建物群が見えてきた。2017年3月にリニューアルオープンした「南三陸さんさん商店街」だ。28店舗が軒を連ね、生活品や土産物などを販売している。店先には地元の素材を使った加工食品や工芸品と一緒に、たくさんの海産物が並び、世界的な建築家の隈研吾氏が設計した木造の建物自体も復興のシンボルだ。建材に南三陸の杉が使われているのである。



さんさん商店街

さんさん商店街の建物と海産物。実はどちらも、環境に優しい町づくりの成果なのだ。それぞれに関わった南三陸森林組合と宮城県漁業協同組合の担当者に、取り組みの内容と狙いを聞いた。

南三陸町は海のイメージが強いが、実は山と里と海が繋がった町である。このつながりを示すのが、「山のエコラベル」といわれるFSC（森林管理協議会）認証と「海のエコラベル」といわれるASC（水産養殖管理協議会）認証の両方を町で取得していることだ。FSCとASCを同じ町が取得するのは、世界で初めてという。

南三陸森林組合の山内日出夫参事は、「FSC認証で問われることは以前から取り組んできたことだが、認証取得をきっかけに意識がさらに高まった」と説明する。

例えば、山での作業中、沢にごみを出さないよう細心の注意を払うのはもちろん、チェーンソーのオイルを環境に優しい種類に切り替えたり、オイルがこぼれにくい容器を使ったりしている。認証取得には経費がかかるうえ、手続き上もさまざまなハードルがあるが、こうした意識の向上が図れたことは大きな成果だったという。



南三陸森林組合の
山内日出夫参事

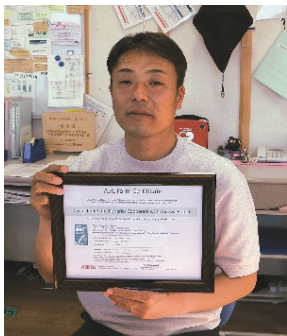
認証取得の際には、山の相続がうまく進んでいるかどうか問われる。日本で森林整備が進まない原因の一つに、所有者が分からない山林の増加がある。FSC認証を取得し維持することは、所有者や境界が不明となる問題の防止にもつながっている。

FSC認証を取得した森林の木材を利用した建物づくりも始まった。南三陸町の役場本庁舎もその一つだ。FSC認証が認知され、こうしたプロジェクトが国内で増えれば、将来は収益の向上にもつながるかもしれない。

南三陸森林組合では、これ以外にも木材の価値を高める取り組みを進めている。広葉樹から家具を作ったり、広葉樹チップからティッシュペーパーを生産したりするのもその一環だ。認証の条件である「経済的に継続可能」という観点からも、こういった活動が実を結ぶかどうかは重要になる。林業に携わる人たちの給与や待遇が、経済的に回っていくレベルかどうかのカギを握るからだ。

実は、こうした林業の活性化にはもう一つの隠れた効果がある。漁業への好影響だ。山と海はつながっているのである。さんさん商店街で見られる「地元の木材で造った店と、そこに並ぶ海産物」は、そのつながりを物語っているのだ。

山から湧き出た水が川を下り、志津川湾に流れ込む。つまり森林経営は、志津川湾のカキ養殖と密接に関わっている。山と里と海のつながりが人々の営みを支えているのだ。先述のASC認証取得に奔走したのが、宮城県漁業協同組合の志津川支所戸倉出張所の星昌孝班長代理だ。



宮城県漁業協同組合
志津川支所戸倉出張所の
星昌孝班長代理

震災後の東北地方では多くの漁業が壊滅的な被害を受けた。ほとんどの漁港が元の状態に戻す「復旧」を目指す中、戸倉は「よりよい未来を目指す復興」を掲げ、新しい取り組みをスタートした。星さんによると、「震災以前、養殖施設が増えすぎて海が環境が悪くなっていることを、

多くの漁業者が感じていた」からだ。研究機関などの助言を採り入れ、養殖いかだなどを適切な数に制限し、間隔も広げるなどの措置をとった。

結果は意外に早く現れる。カキの収穫までに、震災前は2~3年かかっていたが、1年に短縮されたのだ。大きさも震災前の1.5~2倍に育っていることが確認された。震災前の課題だった海が環境悪化の懸念も消えていった。戸倉のカキ養殖は、持続可能な経営へと進化したのである。

環境への悪影響が減って持続可能となったカキ養殖は2016年、ついに日本初のASC認証を取得することになる。認証の取得と維持にコストはかかるが、カキの価格にすぐ反映されることはなかった。しかし取得から1年半経過したころ、環境への取り組みが進んでいる大手スーパーから戸倉のカキが認められ、高値で買ってくれるようになったという。



南三陸町・戸倉の漁港

他の業者からの引き合いも増え始めているが、星さんは「海産物の出荷量を1年を通じて高水準に保つために、まだやれることはある」と話す。ネットショップでカキを含めた地元の海産物を購入できるようにしたのも、知名度やブランド力を上げる狙いがある。

南三陸町は未曾有の大震災からの復興を目指す上で、森林と海の両方の持続可能性を追求。そして尊い努力が実を結び、森林経営と養殖業の間で好循環が実現した。こうした「隠れたつながり」の発見は、地球温暖化防止などの困難な課題に取り組む上でも極めて有効ではないだろうか。

世界に一つだけのオルゴール作りに挑戦 ＝長野・下諏訪で歴史を学び、音色を体感＝

RICOH Quarterly HeadLine 編集部 竹内 典子

疲れを感じたときのリラックス方法を、誰でも一つは持っているだろう。ゆっくり入浴する、好きなお酒をたしなむ…。

気分転換には音楽もお勧めだ。筆者の最近のお気に入りにはオルゴールを聴くことである。ゼンマイを手でゆっくり巻き、ふたを開け、瞳を閉じて流れてくる曲を聴いていると、ふーっと肩の力が抜けていく。子供のころ、バレリーナの人形がくるくると回る姿が楽しくて、オルゴールのゼンマイを何度も巻いたことを思い出す。

オルゴールの癒やしの効果が気になりインターネットで調べた。すると、日本電産サンキョーオルゴール記念館「すわのね」（長野県下諏訪町）でオルゴールの組立体験ができることを知り、5月中旬、自分だけのオルゴールを求めて訪れた。

日本電産サンキョーは、前身の三協精機製作所が1947年オルゴールの研究に着手、翌1948年に試作第1号が完成した。日本のオルゴール業界のパイオニアであり、最盛期の1990年には年間9000万台を製造し、世界シェアの90%以上を占めたほど。世界に誇る諏訪ブランドを継承しながら、現在は高級オルゴールに力を入れている。

記念館がある下諏訪町はJR新宿駅から特急で約2時間半、長野県のほぼ中央に位置する。諏訪湖を中心に諏訪大社や温泉など有数の観光スポットが点在。湿度が低いうえに澄んだ空気ときれいな水に恵まれていることから、戦後は時計やカメラなど精密機械工業が栄え「東洋のスイス」と呼ばれてきた。「すわのね」は、こうした自然と歴史が奏でる音色をイメージして名付けられた。

到着すると、広報部長の井桁道和（いげた・みちかず）さんが笑顔で出迎えてくださった。まず案内されたのは、1階の「日本のオルゴールコーナー」。ここでオルゴールの歴史を学びながら、美しい音色への理解を深めることができる。

オルゴールの起源は、中世ヨーロッパにさかのぼる。多くの町では中心に教会の大きな時計塔が立ち、時を告げる鐘が演奏されていた。オルゴールはその演奏装置が原型とされる。

世界初のオルゴールは1796年にスイスの時計職人アントワーヌ・ファブルによる「シリンダー型オルゴール」といわれる。円筒形のシリンダーが回転し、シリンダーに打ち込まれたピンが歯（くしば）と呼ばれる振動板を弾く仕組みだ。井桁さんは「当初は職人がピンを1本ずつシリンダーに打ち込むなど手作業が多く、貴族や富裕層が楽しむ高級品だったのです」と説明してくれた。

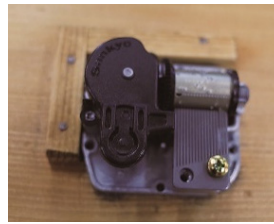
19世紀になると、新たに「ディスク・オルゴール」が登場。金属製のディスクの裏面に突起があり、ディスクの回転によって歯車状のスターホイールを動かし、歯を弾く仕組み。ディスクは手動プレス機で手軽に生産できるようになる。レコードのようにディスクを交換することで、簡単に曲目の変更ができたため、またたく間に普及した。「録音の技術が無かった時代に、多くの人へ音楽と触れ合う喜びを届けたのです」と井桁さん。

大型のディスク・オルゴールは、迫力のある音の実現でき、コインを入れて演奏するジュークボックスのような役割を果たし、レストランや酒場で重宝されたという。しかし、1877年にエジソンの蓄音機発明により、ディスク・オルゴールは自動演奏楽器の主役の座を奪われ、急速に衰退していく。



高級オルゴール「オルフェウス」と井桁道和さん
（提供）すわのね

2階の「世界のオルゴールコーナー」には、こうした歴史を物語る名器が数多く並び、机ほどの大きさをした立派な木箱のシリンダー・オルゴールやアンティーク時計を大きくしたような冷蔵庫大のディスク・オルゴール、手回しで演奏するストリートオルガンなど見る者を飽きさせない。



オルゴールのムーブメント

同じ階には「コンサートホール」も併設。日本電産サンキョーが誇る高級ディスク・オルゴール「オルフェウス」をはじめとして、スイス製、ドイツ製の「最高傑作」が並び、映像とともに繰り広げられるユニークなオルゴールライブでは、音色の競演を楽しむことができる。

オルフェウスの音の美しさの秘密を井桁さんに伺ったところ、「自分たちが良いと思う音をひたすら追求しているだけです。その音が世界のお客様に受け入れられていることは励みになります」。海外からの来館者も増えており、2017年度の総来館者数は2年前の2倍の6万人に上ったという。

オルゴールは精密機械であり、音質は技術者の腕に左右されるという。シリンダーやディスクの回転という限られた時間内に曲を落とし込む編曲のほか、歯車を研磨する技術や調律、部品のかみ合わせを担う技術が重要になる。

世界のオルゴールメーカーの多くが調律などを機械化している中、日本電産サンキョーは長年経験を積み技術を磨いた数人のベテラン技術者による手作業にこだわる。「後継者も育成しながら、日本のオルゴールづくりを絶やさないように努力を重ねる日々です」と井桁さんは語る。

こうしてオルゴールの歴史を学び、音色を堪能したところで、再び1階に降りて今回の目的だったオルゴールの組立体験工房に足を踏み入れた。

まずはケース選び。木箱やハート形など素材や形により、音色も微妙に変わる。今回は定番の四角い木の箱を選択した。次に選曲。クラシックやJポップなど、約700曲が用意されており、どれにするか迷ったが、試聴したクラシックの定番「カノン」を選択、組立体験がスタートした。

その作業は、シリンダーを本体に固定し、ゼンマイをセット、ドラムと歯車を組み合わせてケース内に組み込むという流れ。音色を大きく左右するのがドラムと歯車の噛み合い（かみあい）の調節だが、これが難しい。



オルゴールの仕組みを説明する古厩ひろ子さん

ピンが歯車をうまく弾く距離をつかみ、歯車の真ん中にピンが当たるように設置したいが、なかなか思うようにはできない。歯車をドラムに近づけては遠ざけて、右を上げて、左を上げてと四苦八苦。そのたびに音色を確認すると、ごくわずかの差で音の響き方が全く変わっていた。

自分が一番美しい音色だと感じる場所でネジを締めて歯車を固定、やっと世界に一つだけのオルゴールが完成した。その間、40分ほどだったが、繊細な作業が続いたため、集中力が研ぎ澄まされたような感覚に陥り、職人気分を味わった。

指導してくれた古厩（ふるまや）ひろ子さんからは、「オルゴールは単純な仕組みですが、機械なので動かさないと調節が必要になってしまいます。大切にしまわずに毎日聴くのが、一番いいメンテナンスです」とアドバイスを受けた。

今回組立体験で選んだ曲は、今までにオーケストラのCDで何度も聴いているが、オルゴールで聴くと不思議とノスタルジーを感じる。思い出とともに、癒やしグッズを一つ増やして下諏訪を後にした。



ストリートオルガンを実演する帯川あゆみさん

日本電産サンキョーオルゴール記念館「すわのね」

<http://www.nidec-sankyo.co.jp/museum/>

■入館料：大人1000円、小中学生500円 *16時以降の入館は割引あり
■組立体験料：入館料+ケース料金 *ケースは種類により料金が異なる

(写真) 提供以外は筆者 PENTAX K-50

銀行員から転身した異色のラグーマン ＝リコーブラックラムズの守護神・中澤健宏＝

RICOH Quarterly HeadLine 編集部 西脇 祐介

5月中旬の某日。午前7時前にもかかわらず、東京・世田谷のある建物の一室に、屈強そうな男たちが無言で集まってきた。部屋の中にはたくさんのトレーニング器具が並んでいるが、ゴミ一つなく、管理が行き届いていることが一目で分かる。

やがて男たちそれぞれに紙が配られると、突如「開始！」の合図と共に大音量のダンスミュージックが部屋を揺らし始めた。紙に書かれていたのは、器具の名前と数字。トレーニングの種類と回数を示すものだ。

リコーラグビー部、ブラックラムズの選手たちの1日の始まりだ。早朝、寮に隣接するトレーニングルームで筋肉を覚醒させ、鋼（はがね）の肉体を作り上げていく。バーベルや巨大なボールを抱えての腹筋運動や人を背負っての腕立て伏せなど、各自決められたトレーニングをこなす。数分もしないうちに飛び散った汗で床が濡れ、「ウォー！」「キツー！」と叫び声も聞こえてきた。そこに表情を変えずに黙々とメニューをこなす一人の男がいた。中澤健宏（26）その人である。



バーベルを持ち上げる中澤選手

中澤は異色の経歴を持つラグーマンだ。立教大学時代、関東大学ラグビーオールスターゲームの選抜チームに選出されたほどの実績を持つ。だが卒業後はみずほ銀行に入行、ラグビーの第一線から離れる。「大学を卒業してすぐにプロになったら、引退した後で何ができるのかなって思うと…」とその当時を振り返る。

ところが、2015年のラグビーワールドカップが転機となる。日本代表の活躍をテレビで目にし、日本で開催される次の2019年の大会にはフィールドに立ってほしいという熱い思いが沸き上がったのだ。

そこで、社会人ラグビーのトップリーグのチームに入るためトライアウトを受け、その中からリコーを選んだ。「リコーのトライアウトではいきなり練習試合が行われ、試合中のチームメンバーは私をよそ者ではなく、仲間として迎え入れてくれました」と理由を語る。こうして2016年、銀行員時代の経験も評価されて正社員として中途入社。リコーブラックラムズに加入したのだ。

午前8時過ぎにトレーニングを終えた中澤はシャワーを浴びた後、ミーティングに臨んだ。トレーナーから電子黒板で新しい練習メニューの説明を受け、ドローンで撮影された過去の練習動画を見て作戦を確認。その後、すぐに併設のグラウンドで練習を始めた。中澤は率先して大声を出し、ジェスチャーを交えフォーメーションの連携確認に余念がない。

体をぶつけ合うレスリングトレーニングでも、コーチから檄が飛ぶ中、中澤は最後まで倒れることなく足腰の強さを見せつけた。チーム最後尾のポジションFB（フルバック）として守護神の役割を任されているだけに頼もしい。



レスリングトレーニング中の中澤選手（左）

午前11時過ぎまでみっちり続いた練習の後は、針治療などで体のケア。それから昼食を手早く済ませると、急いで東京・田町に向かった。

中澤にはもう一つの顔がある。午後からは営業マンに変身するのだ。取引先に製品やITサービスを提供し、飛び込み営業もこなす。この日は、営業活動計画について話し合う社内ミーティングに参加した。「仕事との両立は大変だけど、だからこそラグビーをやるときは集中して取り組もうという意識になります」とまなざしは熱い。もっとも職場では、「一生懸命な天然ちゃん」と呼ばれている。先日は社内のクールビズ開始日を間違えて独り半袖ワイシャツのみで入社し、周囲から笑われたそうだ。



社内会議後の個別ミーティング

その後、お客様である不動産会社へ1人で訪問し、リコーの製品を紹介した。「真面目で打ち合わせの内容は必ずメールで共有してくれます。とてもやりやすい」とお客様からも好評だ。実際、移動中も常にスマートフォンでメールやスケジュールを確認することが習慣化している。また、ラグビーの練習でけがをしたときなどに備え、先輩社員にいつでも引き継げるように小まめに情報を共有している。



お客様との打ち合わせ

「お客様にトライアルで提供しているサービスの本格導入が決まり、今週契約書をもらえる予定です」と話す中澤の表情は、やりがいに満ちているように見えた。その一方で、帰り際に傘を忘れそうになり、お客様に指摘されているところは「天然ちゃん」の愛される一面なのかもしれない。

この日の業務は午後5時半過ぎに終了。その後はすぐに寮に戻り、1時間ほどのストレッチと練習動画で個人反省を行った。夕食は寮で用意された栄養バランスのよいものを食べるほか、1日4回のプロテインを忘れずに摂取して、体重の増加を目指している。時間があれば趣味の読書をしに、カフェに向かうこともあるが、必ず午後11時には寝るようにしているという。

密着取材の最後に、今シーズンのラグビー トップリーグとワールドカップに向けての意気込みを聞いてみると、こんな答えが返ってきた。「昨シーズンは途中から試合に出られるようになったばかりで選手としては発展途上。チームは昨シーズン7位の成績で私も7位のチームの選手でしかありません。今シーズンの目標は優勝であり、私も優勝を目指して1試合でも多く出場して活躍すること。ナンバーワンのチームの選手であればワールドカップへの道が見えてくると思います」一。（敬称略）

トップリーグ日程（リーグ戦）

| キックオフ | 時間 | 対戦チーム | 会場 |
|----------|-------|----------------|--------------|
| 9/1(土) | 19:00 | Honda HEAT | 秩父宮ラグビー場 |
| 9/9(日) | 16:00 | 東芝プレイブルーパス | 駒沢陸上競技場 |
| 9/15(土) | 17:30 | コカ・コーラレッドスパークス | レベルファイブスタジアム |
| 9/21(金) | 19:30 | キャノンイーグルス | 秩父宮ラグビー場 |
| 10/6(土) | 13:00 | クボタスパークス | 天理親里ラグビー場 |
| 10/13(土) | 13:00 | パナソニックワイルドナイツ | 太田市運動公園陸上競技場 |
| 10/20(土) | 13:00 | ヤマハ発動機ジュビロ | 万博記念競技場 |



(写真) 筆者 PENTAX K-50

日中平和友好条約締結40周年を巡って ＝日本危機管理学会が第27回年次大会＝

企画室 研究員 小野 愛

日本危機管理学会は5月12日、第27回年次大会（2018年度）を筑波大学東京キャンパス文京校舎で開いた。産官学それぞれの観点から、危機管理のあるべき姿について白熱した議論が展開された。

今大会の統一論題「日中平和友好条約締結40周年を巡って」では、①中国人民解放軍の戦力と実力（下平拓哉・防衛省防衛研究所主任研究員）②中国「一帯一路」構想と日本企業のリスクマネジメント（中野哲也・リコー経済社会研究所副所長ほか2人）③サイバー強国中国と如何に向き合うか（原田泉・国際社会経済研究所主幹研究員）一が発表された。

このうち、原田氏は「今後のサイバー安全保障ではAI（人工知能）が重要になる」と指摘。その上で、AIで大量の通信を監視することで異常を検知し、新たな脅威の予測と迅速な対応が可能になると主張した。

この後のパネルディスカッションでは、日中関係のあるべき姿について、熱い議論が交わされた。とりわけ最大のリスク要因については、「日中がお互いを知らないこと」という指摘が相次いだ。日本は人口減少など課題先進国としての経験を中国に伝えていくべきであり、経済活動だけでなく、人と人との交流を大切にすべきだという意見への賛同が広がりを見せた。



パネルディスカッションも白熱

これに先立つ自由論題では、①企業の不祥事対応における行程表の重要性について（大森朝日・大森朝日事務所代表）②日本企業におけるオープン・イノベーションのリスクに関する考察（榊原一也・国土舘大学准教授）③民間企業における弾道ミサイル攻撃対応と課題（芦沢崇・東京海上日動リスクコンサルティング主任研究員）④エレクトロニクス業界に40年携わって思うこと…国力の衰え（亀田修・スーパーセキュリティソリューションズ代表取締役）⑤東京オリンピック・パラリンピックの安全・安心な開催に向けた官民連携のあり方（岩井克己・倉敷芸術科学大学客員教授）一が発表された。

なお会員総会では役員改選案が可決され、池田十吾会長（国土舘大学教授）が名誉会長、酒井明常任理事（東京福祉大学特任教授）が特別顧問に就任。また、原田泉理事長が会長、中野哲也理事が理事長に就いた。（事務局はリコー経済社会研究所内、入会案内などは日本危機管理学会ホームページ<https://cmsj.org/>）

（写真）筆者 PENTAX K-50



原田泉氏「サイバー強国中国と如何に向き合うか」

ただし、日本はAI関連の特許出願数がマイナス傾向にあるのに対し、中国はその約3倍達するという（2010～2014年を2005～2009年と比較）。このため、原田氏は日本がAIの研究開発によってサイバーインテリジェンスを強化する必要性も指摘。その一方で、「一番重要なことは、日中の信頼関係を醸成して戦わないことだ」と強調した。

瀬戸内海が育んだ「箱庭」的都市／尾道市（広島県） コンパクトシティが地方を救う（第15回）

リコー経済社会研究所 副所長・主席研究員
RICOH Quarterly HeadLine 編集長

中野 哲也

はこにわ【箱庭】浅い箱に土砂を入れ、家・橋などの模型を置いたり小さい木を植えたりして、山水の景色や庭園をかたどったもの。（岩波国語辞典）

海、山、川、線路、駅、道路、バス停、港、家屋、商店街、繁華街、学校、工場、寺社…。こうした街に必要な要素がぎゅっと詰め込まれた「箱庭」には、子供から大人までを魅了する不思議な力がある。それは何でも揃っているという安心感なのか。その一方で、将来の変化を予兆する緊張感も…。箱庭が突然目の前に出現したら、どんなにか楽しいだろう。そんな子供の頃からの夢をかなえてくれる街が瀬戸内海で見つかった。尾道市（広島県）である。



尾道の市街地からロープウェイに乗り、空中散歩も東の間、およそ3分で千光寺山の頂上に着いた。そして眼下に広がる大河…。いや、そうではない。それは市街地と対岸の向島（むかいしま）を隔てる、れっきとした海峡「尾道水道」なのだ。その幅はわずか200メートル程度。今年4月、逃走中の受刑者が向島から泳いで本州側に渡り、全国から関心を集めた。



中世からの箱庭的都市、対岸が向島



尾道市街地と向島を結ぶ渡船

千光寺（創建806年）には1200年を超える歴史があり、鮮やかな朱塗りの本堂は風格が漂う。そこから坂道を下ると、室町幕府第二代将軍・足利義詮の建立（1367年）とされる天寧寺。その三重塔（国指定重要文化財）から尾道大橋を望む「箱庭」も絶景である。



千光寺本堂から向島

尾道市（広島県）



天寧寺から尾道大橋

市街地の東部にある浄土寺は聖徳太子の開基（616年）と伝えられ、足利尊氏が必勝を祈願したという古刹。朱塗りの多宝塔や本堂は国宝に指定されている。



浄土寺・多宝塔



金剛院・カラス天狗



浄土寺・本堂



西國寺・仁王門の大草鞋

太平洋戦争中も尾道は戦火を免れたため、立派な門構えの古寺が今も多数健在である。この街は天然の良港に恵まれ、12世紀に第一期黄金時代を迎える。江戸時代には北前船の寄港地となり、白壁の蔵が立ち並んで商人の街として繁栄した。それが第二期黄金時代。巨万の富を得た豪商たちが、競い合うように寺に寄進したというわけだ。

西國寺（開山729年）は古来「西国一の寺」と称賛されてきた名刹。まずは仁王門に奉納されている2メートルの大草鞋（わらじ）が出迎えてくれる。「坂の街」を歩く旅行者が健脚を祈願し、仁王門をくぐって108の石段を上ると、荘厳な三重塔（国指定重要文化財）がそびえ立つ。



西國寺・三重塔

尾道市（広島県）

尾道の市街地には平地が非常に少ないため、コンパクトシティにならざるを得ない。海と山の間の斜面に民家や寺社がへばり付き、狭い路地が点と点を結んでいる。ただし、路地の主役は必ずしも人間ではない。そう、尾道はネコの街でもあるのだ。



坂の街と路地



坂の難工事、尾道市立大のバイト学生が活躍



「ネコの街」としても知られる

尾道水道に面した海沿いの平地では、商都として栄えた証（あかし）が随所で見つかる。旧住友銀行尾道支店として1904年に造られた建物は、激動の近代史を今に伝える。住友家が本拠地としていた別子銅山（愛媛県新居浜市）は瀬戸内海の対岸。1895年、大阪の住友本店と別子銅山の重役たちが尾道に集まり、銀行業への参入を決定したという。



旧住友銀行尾道支店

このほか、現在の広島銀行の前身の一つである旧尾道銀行本店（現おのみち歴史博物館）や旧尾道商業会議所など、レトロモダンな建造物が実に丁寧に保存されている。中心部の商店街では後継者不足などでシャッターが徐々に閉められているが、見事に再生した店舗も少なくない。市民気質が開放的なせいか、市外から移住してお洒落なショップを経営する人も目立つ。



旧尾道銀行本店（現おのみち歴史博物館）



旧尾道商業会議所

尾道市（広島県）



中心部の商店街では店舗再生も進行中



この街は歩いているだけで楽しい。絵になるスポットが数えきれないほどあり、独特の情景が映画監督の心を驚つかみにしてきた。小津安二郎や新藤兼人、山田洋次らの巨匠がこの街を舞台に数々の名作を生みだしている。

だが何と言っても、尾道を映画の街として有名にしたのは地元出身の大林宣彦監督。同氏が撮った尾道三部作（「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」）と新尾道三部作（「ふたり」「あした」「あの、夏の日」）のロケ地は、市街地の至る所で見つかる。おのみち映画資料館によると、1929～2014年に劇場公開された映画のうち、実に46本が尾道市内でロケが行われたという。



おのみち映画資料館

この街に魅了された文豪も少なくない。林芙美子（1903～1951年）は幼少期から高等女学校卒業まで尾道で過ごし、代表作「放浪記」の中で、林は「海が見えた。海が見える。5年ぶりに見る尾道の海はなつかしい。汽車が尾道の海へさしかかると、煤けた小さい町の屋根が提灯のように…」と、街の美しさを情景豊かに表現している。



林芙美子像

志賀直哉（1883～1971年）は1912年に一時、東京から尾道・千光寺山の中腹に移り住み、「暗夜行路」の構想をまとめ上げた。志賀はこの名作の中で街の情景を「景色はいいところだった。寝転んでいていろいろな物が見えた。前の島に造船所がある。そこで朝からカーカーンと…」と愛情たっぷりに描写している。その中で「三軒の小さな棟割長屋の一番奥」と記された尾道時代の旧居は丁寧に保存されており、文豪の視線で「箱庭」を味わうことができる。



志賀直哉旧居



海と山の幸に恵まれた尾道はグルメの街でもあり、最近ではブタの背脂が特徴的な「尾道ラーメン」が全国ブランドになった。

100年以上前の志賀の好物は、瀬戸内海の新鮮な魚から作られる蒲鉾だった。「暗夜行路」に登場する、志賀が世話になった「隣の親切な婆さん」が小林マツさん。その孫の村上桂造さんが「桂馬蒲鉾商店」を1913年に創業し、店は今も伝統の味を守り続けている。



尾道ラーメン



瀬戸内の地魚は絶品
(鮭と魚料理「保広」)



創業105年「桂馬蒲鉾商店」



高級スイーツのような蒲鉾

2代目の村上隆さん（92）に取材すると、父の桂造さんは文学好きで志賀の旧居をたびたび訪問。志賀が東京に帰ってからも、桂三さんは車で上京して蒲鉾を届けていた。志賀はたいそう喜んで写真や書籍を贈ったという。

「ほかの店では作れないものを作れ！」一。桂造さんの教えを守り、隆さんは朝4時起きで魚をさばいた。高級スイーツのように美しくて甘みのある蒲鉾を作り続けた。経営は3代目に譲ったが、英国紳士のような出で立ちで元気いっぱい。若い頃は相撲で体を鍛え上げ、今でも相撲甚句を大きな声で歌い上げる。長寿の秘訣を尋ねると、「腹八分目で酒・タバコはやらないことだね。でも、お饅頭とか甘いものはいいんだよ」一。店頭では、孫のひかるさんが看板娘。隆さんは嬉しくて仕方ないという表情で撮影に応じてくれた。



2代目の村上隆さんと孫のひかるさん

ほかにも尾道では、シニアが生き生きと活躍していた。今回の取材でお世話になった、尾道市シルバー人材センター観光ガイドの二人も、古希を過ぎたとは思えない若々しさである。坂道もどんどん上っていくから、50歳代の筆者が置いてきぼりにされてしまう。

このうち、岡田隆史さんは天文台で長年勤務した後、定年後に地元の歴史を学んで観光ガイドに。街の隅から隅まで知り尽くし、「生き字引」的な存在である。「ある面では京都や奈良に負けない、尾道の神社仏閣の素晴らしさを観光のお客様に知ってほしいんです」と話す。一方、中林美津子さんは若い頃に神奈川県内でバスガイドの経験があり、「観光ガイドの仕事が楽しくて仕方ありません」と素敵な笑みを絶やさない。



シルバー観光ガイドの岡田隆史さんと中林美津子さん

尾道市（広島県）

シニア人材が活躍する背景には、尾道市の政策努力がある。「住みなれた地域で元気でいきいきと安心して暮らせるまち」を目指し、「おのみち幸齢プロジェクト」を推進しているのだ。「高齢」ではなく「幸齢」？平谷祐宏市長（65）に取材すると、「『高齢』という言葉にはマイナスのイメージがあるじゃないですか。歳を重ねるごとに幸せを感じられる『幸齢社会』を実現したいのです」—

これは単なる市のスローガンではない。例えば、①幸齢者学校（地域全体を支えあうコミュニティモデルのネットワーク構築を図り、地域力を高めるための研修・講演会）②シルバーリハビリ体操（指導士を養成して地域で介護予防の体操）③お役立ち情報誌「出たもん勝ち」（地域とのつながりや生きがいの発見を促す）—といったユニークな施策を幾つも展開し、高齢者の生きがいつくりや介護予防に積極的に取り組んでいるのだ。中でもシルバーリハビリ体操は台湾に伝えられ、平谷市長が現地で講演すると、「日本の小さな港町が高齢者の楽園をつくっている」と高く評価されたという。



尾道市の平谷祐宏市長

平谷市長は尾道をサイクリストの聖地としてもアピールしてきた。今治市（愛媛県）まで約70キロの「しまなみ海道」では、瀬戸内海に浮かぶ島々を巡りながら、サイクリングを満喫できる。JR尾道駅近くには、各種サービスを提供する複合施設「ONOMICHI U2」を整備。市長が先頭に立ち、世界最大の自転車メーカー、ジャイアント（台湾）のストアを誘致した。今では連日、海外からも多くのサイクリストがやって来る。



高見山（尾道市・向島）から望む瀬戸内海



しまなみ海道（多々羅大橋）



ONOMICHI U2

尾道市の人口は13.8万人（2018年4月末）にすぎないが、年間700万人に近い観光客が訪れる。「箱庭」のような風景や古代からの神社仏閣といったキラークンテンツに恵まれるだけではない。市民や行政が最も大切なもの＝住みやすさ＝を守るために、常に変化を追求してきたからだろう。この「不易流行」こそ、人口減少時代で生き残りを目指す地方都市に求められる哲学だと思う。



世界中からサイクリストが集結



原爆ドーム（広島市）

PENTAX K-S2

人類は作っちゃいけないものを作り、使っちゃいけないものを使った…。高校2年の修学旅行で原爆ドーム（広島市）を初めて見た際、「人類＝悪魔」という絶望的な式が頭の中の片隅に潜り込んだ。その後、通信社の記者として経済危機下のアルゼンチン取材の際、現地ラジオ局からインタビューを受けた。その時、「なぜ日本は原爆を投下した米国と仲良くできるのか」と質問され、満足に答えられなかった苦い経験がある。今春、39年ぶりに原爆ドームを訪れ、高校時代の絶望と記者時代の苦さが心の中によみがえった。その一方で、熱心に見学する外国人旅行客の姿が勇気を与えてくれた。核兵器は作らせないし、決して使わせない。諦めてしまったら、悪魔がほくそ笑むだけだ。（N）

RICOH Quarterly HeadLine Vol.20 2018 夏

発行日 2018年6月29日
発行人 神津 多可思
編集長 中野 哲也
編集部 竹内 典子 伊勢 剛 西脇 祐介
編集協力 田中 博 松林 薫
発行所 リコー経済社会研究所
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5
丸の内北口ビルディング20F



ホームページアドレス
<http://jp.ricoh.com/RISB/>

リコー経済研

検索Q

本誌記事・写真の無断複製・転載を禁じます。
RICOH Quarterly HeadLineへのご意見やご提案は、
<https://webform.ricoh.com/form/pub/e00103/risb>
へお願いいたします。

RICOH
 imagine. change.

リーグ戦

| | | | |
|-----|---|---------|-----------|
| 第1節 | VS HondaHEAT 東京・秩父宮ラグビー場 | 9 / 1 | SAT 19:00 |
| 第2節 | VS 東芝ブレイブルーパス 東京・駒沢陸上競技場 | 9 / 9 | SUN 16:00 |
| 第3節 | VS コカ・コーラ レッドスパークス 福岡・レベルファイブスタジアム | 9 / 15 | SAT 17:30 |
| 第4節 | VS キャノンイーグルス 東京・秩父宮ラグビー場 | 9 / 21 | FRI 19:30 |
| 第5節 | VS クボタスピアーズ 奈良・天理親里ラグビー場 | 10 / 6 | SAT 13:00 |
| 第6節 | VS パナソニック ワイルドナイツ 群馬・太田市運動公園陸上競技場 | 10 / 13 | SAT 13:00 |
| 第7節 | VS ヤマハ発動機ジュビロ 大阪・万博記念競技場 | 10 / 20 | SAT 13:00 |

カップ戦

| | | | |
|-----|---|---------|-----------|
| 第1節 | VS NTTコミュニケーションズ シャイニングアークス 岩手・いわぎんスタジアム | 11 / 11 | SUN 13:00 |
| 第2節 | VS サントリー サンゴリアス 神奈川・ニッパツ三ツ沢球技場 | 11 / 17 | SAT 13:00 |
| 第3節 | VS HondaHEAT 愛知・パロマ瑞穂ラグビー場 | 11 / 24 | SAT 11:30 |

開

JAPAN RUGBY
 TOP LEAGUE
 2018-2019

幕

BlackRams
 RICOH RUGBY FOOTBALL TEAM